



令和3年度指定 高指第125号

藤巻 一智

生年／昭和43年 指定技術名／銅器・生型



しんごしょぎくりんとう

新御所菊輪灯

生型鑄造法の技術者で、この輪灯では菊の装飾が施された親釣といわれる輪の部分と相吊といわれる吊金具が、原型から一点一点直接鑄型を作る現型(げんがた)の技術で作られている。肉厚の変化が大きく複雑な模様のため、鑄型作り、溶湯作業には熟練した技術を要する。特に種上げの際には、水筆を用い丁寧かつ迅速な作業で透かし模様を忠実に再現している。格調高く隅々まで神経の行き届いた優品である。

※種上げとは、鑄型から原型を取り出すこと。

令和4年作

素材・技法／真鍮・生型

寸法／6寸 親釣幅19.5cm

[経歴]

- 平成 6年 家業に従事し生型鑄造技術を父藤巻進一氏、叔父藤巻道雄氏から習得する。研究機関等の勉強会に参加し鑄造に関する技術・知識を身に付ける。
- 平成 16年 高岡市伝統工芸産業担い手優秀技術者表彰
- 平成 18年 高岡銅合金協同組合青銅会会長
- 平成 20年～ 高岡銅合金協同組合理事
- 令和 3年 高岡市伝統工芸産業技術保持者指定
- 令和 4年～ 伝統工芸高岡銅器振興協同組合理事